

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

しない後悔よりもする後悔

横浜共立学園中学校 3年 牛山^{うしやま} 未彩^{みさ}

私には、幼い頃から苦手なことがある。それは、「自分の意見を持ち続ける」ことだ。例えば、小学生のとき。クラスでAとBどちらが良いと思うか、手を挙げるように言われたことがあった。私は、Aが良いと思ったので、Aに手を挙げようとしていた。しかし、「Aが良いと思った人、手を挙げて下さい。」そう言われた時に、手を挙げた人が1人もいなかったのだ。私は、怖気づき、自分の決めた方ではないBに手を挙げてしまった。ささいなことだが、こんなことが何度かあった。「また自分が決めた方に手を挙げられなかった。」「今回は、少数だけど自分と同じ意見の人がいたのに手を挙げられなかった。」そんな後悔がどんどん思い浮かんだ。少数派に手を挙げるということは、まるでクラスの過半数を敵に回し、限りなく「孤独」に近づいているようでとても怖かった。だから、クラスで多数決をするたびに、「後悔」と「恐怖」という感情に押し潰されそうになった。そして、いつの間にか、「自分の意見を発表する」ことに苦手意識を持つようになっていた。

ある日、委員会でデザインの話し合いをしていたこと。①と②の案があり、その場の空気は、①の案で決まりそうになっていた。そんな中、ある先輩がみんなの前で

「私は②の案が良いと思います。」

と言い、理由を話し始めたのだ。周りの空気など気にせず、堂々と話す先輩を見て、驚き、尊敬すると同時に、自分が恥ずかしくなった。私は、自分の意見を話すどころか、多数決ですら、少数派に入ることを恐れる。しかし、この先輩は、最初から最後まで、自信を持って発表しているように見えた。そして、デザインは、①案になったのに、とても満足そうに笑っていたのだ。不思議でならなかった。

話し合いが終わると、その先輩に

「ああいう空気、意見言うのって怖くないですか。」そう聞いてみた。すると、その先輩は、

「緊張するけど、あとで言わなかったのを後悔したくないから。しない後悔よりもする後悔だよ。」

と、言った。「しない後悔よりもする後悔」この言葉が、私の心に響いた。気になって、辞書で意味を調べると、「行動しなかったことに対する後悔よりも、恐れや不安

に立ち向かい、自分自身の成長や可能性を広げるために行動する方が良いということ」と出てきた。まさにこれは、今の私への最高のアドバイスだと思った。そして、私は恐れや恐怖に立ち向かうという「挑戦」をしていないから、後悔ばかりしているということに気づき、「次の話し合いのときは、周りの空気や、手を挙げている人数に関係なく、自分の意見に手を挙げよう」と、決心した。

そして、1週間後の委員会。また、多数決があった。①、②案のうち①案が良いと思った。しかし、「①案に手を挙げるのが私だけかもしれない」「②案の方が、人数が多そうだったら、②案に手を挙げようかな」そんな思いがジワジワと出てきた。変わらなくては、いけない思いながらも、変わることに恐怖を感じ、困っていると、あの先輩と目が合った。「しない後悔よりもする後悔」この言葉を思い出した。心細かった私を勇気づけてくれた。

「①の案が良い人思う人。挙手して下さい。」

「はい。」

①に手を挙げられた。挙げた瞬間、周りの空気や、挙げた人数よりも「自分の意見を発表できた」という事実が、ただただ嬉しかった。そして、あの言葉を教えてくれた先輩に心から感謝した。

周りの人からは単純に見えるかもしれない私の「苦手」なこと。しかし、ある先輩の言葉をきっかけに挑戦し、自信を持つことが出来た。その「苦手」は、今では「強み」になるほど、成長することができ、自分の可能性が広がった。この体験を通して、挑戦することの大切さ、人と人との関わり、言葉の影響など、これからの社会を生きていく上で大事なことを改めて学んだ。

「しない後悔よりもする後悔」

先輩から教えてもらったこの言葉を胸に、これから色々なことに挑戦したいと思った。そして、この言葉をバトンに、誰かを一押しできる存在になりたいと思った。